

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：33912

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12566

研究課題名（和文）旅行者属性を考慮した着地型観光行動の分析および誘客手法の研究

研究課題名（英文）Analysis of Travelers' Behavioral Patterns in Tourist Destinations

研究代表者

山本 真嗣（Yamamoto, Masahide）

名古屋学院大学・外国語学部・教授

研究者番号：70529940

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：当研究は、訪日外国人旅行者の行動特性を日本人旅行者のそれと比較し、外国人旅行者を効果的に着地型観光へ誘客する手法の構築を目的としていた。当初計画においては、旅行者属性（性別・年代・居住地）ごとの行動分析と、着地型観光への誘客手法を実現することを企図していたが、新型コロナウイルス感染症の人流への影響を受け、調査対象地人口の推移と属性を検証し、新型コロナウイルス感染症の影響及びその回復過程を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当初の計画を大幅に軌道修正することを迫られたが、結果的にパンデミックが観光地に及ぼす影響とその回復過程を明らかにすることができた。2020年は、どのエリアもパンデミックの影響による人口の減少が観察され、特に4月に減少が顕著であった。パンデミックの影響にもかかわらず、京都駅や大阪駅などの商業地では、2020年10月には減少した人口が概ね回復した。一方で、清水寺などの観光地では、人流の回復が弱い傾向が示された。2022年には、調査対象地における観光需要がほぼ回復していることが確認された。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a method to effectively attract foreign tourists to domestic tourist destinations by comparing the behavioral characteristics of foreign tourists visiting Japan with those of Japanese tourists. The initial plan was to analyze the characteristics of each traveler (gender, age, and place of residence) and to develop the method to attract tourists to tourist destinations. However, due to the impact of the COVID-19, we considered the trends and attributes of the population of the surveyed area and examined the recovery processes in each area.

研究分野：観光情報

キーワード：人口統計データ 着地型観光 旅行者属性 モバイル空間統計 携帯電話

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、我が国では観光産業が地域経済活性化の期待を集めていた。平成 29 年には、訪日外国人旅行者数が年間 2,869 万人を記録する一方、京都など一部観光地では観光客の過度の集中にともなう諸問題も顕在化した。着地型観光には、外国人旅行者の滞在中のオプションとしてその満足度向上に資するだけでなく、混雑の分散化対策としての効果も期待されていた。

従来、着地型観光への旅行者の誘客は、観光情報を掲載した紙媒体や旅行会社・ホテル・観光案内所による紹介や口コミなどを中心に行われてきた。そして、その誘客効果を検証する過程において、以下に挙げる問題点が未解決の状態にあった。

誘客効果の詳細な測定は、旅行者数や属性を把握可能な一部の観光地・施設に限定されており、旅行者属性ごとの誘客効果の詳細な検証も困難であった。

着地側が旅行者属性を的確に把握し、そのサービス内容を最適化することが難しい。

よって旅行者属性の分布や行動特性に基づいた誘客手法も、まだ確立に至っていない。

### 2. 研究の目的

当研究は、旅行者属性（性別・年代・居住地）ごとの行動分析と、着地型観光への誘客手法を実現することを企図するものである。訪日外国人旅行者の行動特性を日本人旅行者のそれと比較し、外国人旅行者を効果的に着地型観光へ誘客する手法の構築を目的としている。

従来、訪日外国人を含めた旅行者の着地型観光への誘客は、これまで観光情報を掲載した紙媒体や旅行会社・ホテル・観光案内所による紹介や口コミなどを中心に行われてきた。そして、その誘客効果の検証は、旅行者数や属性（年齢、性別、居住地など）を把握可能な観光地・施設に限定される（観光地・施設により不可能な場合もある）という問題点を抱えていた。そのため、着地側が旅行者の属性ごとに誘客効果を詳細に検証したり、旅行者属性の分布を的確に把握して誘客手法や時期を最適化したりすることも、困難であった。

しかし、今ではアクセス解析やモバイル空間統計などの ICT サービスを活用し、旅行者属性をより詳細に把握することができる。属性に応じて最適化した誘客を実行し、精密な誘客効果の測定・検証も可能である。そこで得られる知見を活用し、精度の高い誘客が実現すれば、物資や（非正規従業員を含む）人員配置の効率化が可能になる。加えて、事前に顧客の属性（年齢・性別・居住地）の分布をある程度把握し、それに依りて提供するサービス内容を最適化できれば、顧客満足にもプラスの効果が期待できると考えた。

### 3. 研究の方法

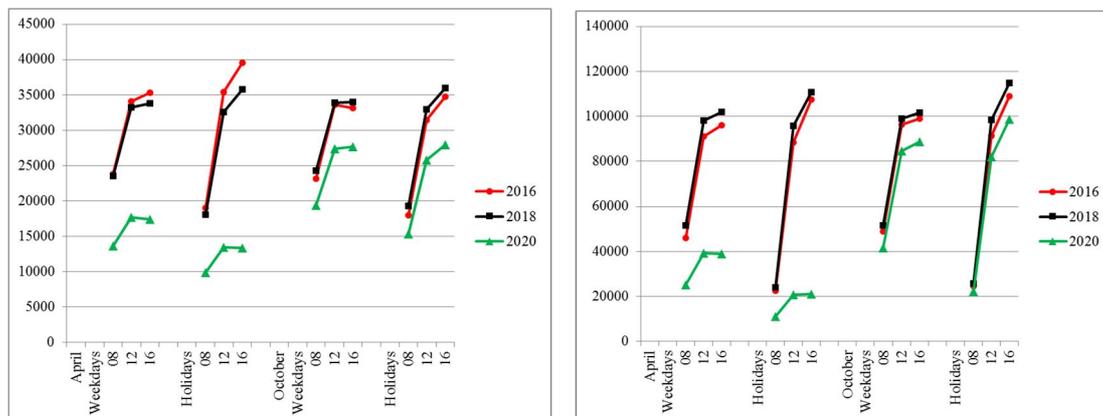
当研究は、携帯電話会社が提供する人口統計データを活用し、観光地における旅行者属性ごとの行動分析と着地型観光への誘客手法を実現するため、旅行者の情報探索・観光行動をモデル化し、その誘客効果も属性ごとに検証することを企図する実証的研究である。観光地を訪れる日本人・外国人旅行者の属性ごとの情報探索 + 観光行動を分析し、より効率的・効果的に着地型観光に誘導する仕組みを構築するための実証的な調査研究を行った。京都市とその周辺の観光地を調査対象地として、2016 年 4 月から 2022 年 10 月までの人口統計データを入手し、人口の推移と属性を検証した（調査仕様は、以下の通り）。

- ・調査対象地：京都駅、大阪駅、新京極、清水寺、金閣寺、嵐山、平等院、東大寺の 8 地域
- ・調査期間：2016 年、2018 年、2020 年、2022 年の 4 月と 10 月
- ・時間帯：8 時台、12 時台、16 時台

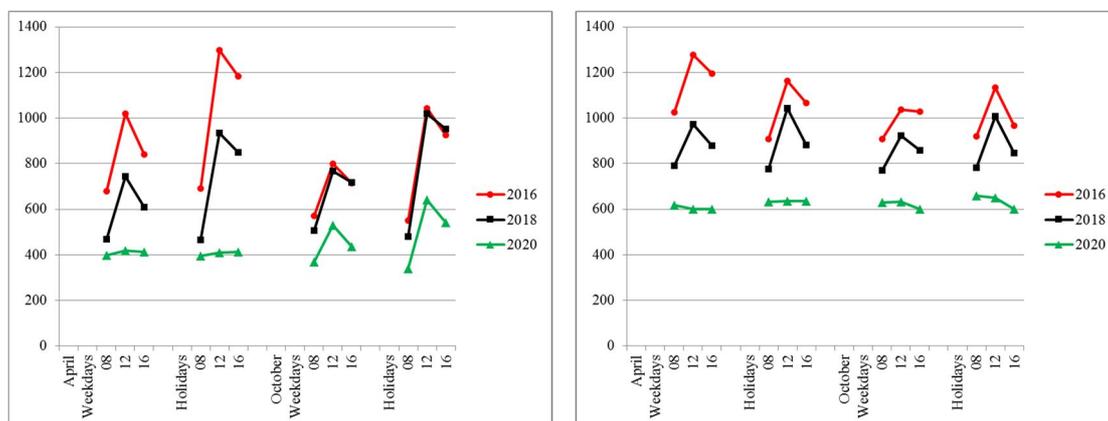


#### 4. 研究成果

本研究では、上記の調査仕様に基づいて、調査対象地 8 エリアの人口統計データを入力した。当初計画においては、観光情報提供サイトのオンライン誘客成果およびアクセス解析結果と、観光地の訪問者数・属性のデータとを関連づけて統計的処理を行い、その効果を旅行者の属性ごとに検証する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の人流への影響を受け、大幅に軌道修正を迫られることとなった(様々な代案を検討した結果、主に調査対象地人口の推移と属性を検証し、新型コロナウイルス感染症の影響及びその回復過程を考察した)。

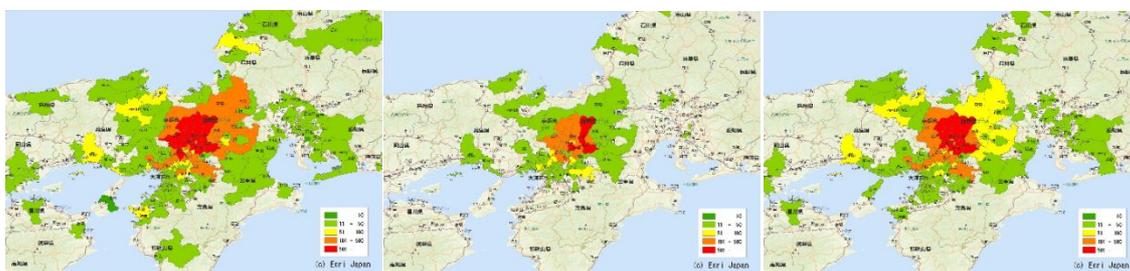


地域内人口の推移 (左：京都駅，右：大阪駅)



地域内人口の推移 (左：清水寺，右：金閣寺)

2020 年は、どのエリアもパンデミックの影響による人口の減少が観察され、特に 4 月には多くの地域で減少が顕著であった。パンデミックの影響にもかかわらず、京都駅や大阪駅などの商業地では、2020 年 10 月には減少した人口が概ね回復した。一方で、日本政府による GoTo キャンペーンにもかかわらず、清水寺などの観光地では十分な回復を示すことができなかった(ただし、2022 年には、調査対象地における観光需要がほぼ回復していることが確認された)。



地域内人口の属性・居住地 (京都駅：左から 2018 年 10 月，2020 年 4 月，2020 年 10 月)

居住地別に見ると、2020 年 4 月の京都駅の人口は、2018 年 10 月のそれと比較して遠方の市町村からの訪問者が少ない。概ね回復した 2020 年 10 月も同様である。清水寺等の観光地でも、同様の傾向を見出すことができる。全体的に、旅行者は感染リスクを低減するため遠方への旅行を避けたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山本真嗣	4. 巻 36
2. 論文標題 コロナ禍における観光地の人流の変化の考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 185-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahide Yamamoto	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Analyzing the impact of the spread of COVID-19 infections on people's movement in tourist destinations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Global Tourism Research	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Masahide Yamamoto	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 A regression analysis of trends in population changes in tourist destinations: Using keyword search volume and statistical population data	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Global Tourism Research	6. 最初と最後の頁 99-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Masahide Yamamoto
2. 発表標題 Changes in People's Movement in Tourist Areas after COVID-19
3. 学会等名 28th ISSAT International Conference on Reliability & Quality in Design (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本真嗣
2. 発表標題 コロナ禍における観光地の人流の変化の考察
3. 学会等名 第36回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masahide Yamamoto
2. 発表標題 Examining Transitions and Characteristics of Populations in Tourist Areas
3. 学会等名 International Conference on Tourism And Entrepreneurship (ICTE) 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本真嗣
2. 発表標題 観光地における訪問者数の推移と訪問者属性の考察
3. 学会等名 地域活性学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahide Yamamoto
2. 発表標題 Examining the Number of Visitors in Tourist Destinations through Mobile Phone Users' Location Data
3. 学会等名 The 20th Asia Pacific Industrial Engineering And Management Systems (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahide Yamamoto
2. 発表標題 Transitions and Characteristics of Populations in Tourist Areas in Nagoya City
3. 学会等名 SEAMA 2020 Islands Tourism & Hospitality Management
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Fausto Pedro Garcia Marquez, Benjamin Lev, Masahide Yamamoto et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 304
3. 書名 Internet of Things: Cases and Studies	

1. 著者名 Marquez, F. (Ed), Jayashree, K., Chithambaramani, R., Sonmez, F., Agrawal, R., Chander, B., Yamamoto, M et. al	4. 発行年 2019年
2. 出版社 IGI Global	5. 総ページ数 478
3. 書名 Handbook of Research on Big Data Clustering and Machine Learning	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長尾 光悦  (Nagao Mitsuyoshi)  (30343015)	北海道情報大学・経営情報学部・教授    (30115)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	P . R . M o r r o w  (Morrow Phillip)  (70288447)	名古屋学院大学・外国語学部・教授     (33912)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関